

このまちの未来をみんなで考える

学校の在り方に関する 意見交換会を開催します

●問＝学校教育課 TEL23-0424

市内でも進む少子化

全国的に少子化が急速に進む中、小林市も例外ではなく、小中学校の児童生徒数が減少しています。

令和6年度に3202人だった児童生徒数は、6年後の令和12年度には、約590人減の2616人になるとの試算が出ており、その後も加速度的に減少することが推計されています。

各学校の児童生徒が減少することで「子どもたちが多様な考え方に触れる機会が少なくなる」、「入りたい部活動が無くなる」などの

課題を抱える学校が増えていくことが予想されます。

一方で、学校は地域コミュニティや防災拠点としての役割も担っているため、その重要性が広く再確認されています。

学校を取り巻く環境が急激に変化している現在、子どもたちにより良い教育環境を残していくために、学校の未来を地域全体で考える時期を迎えています。

学校の未来を考えよう

市では市内小中学校において、少子化の進行に伴う学校規模の適正化や学校施設の老朽化などの観点か

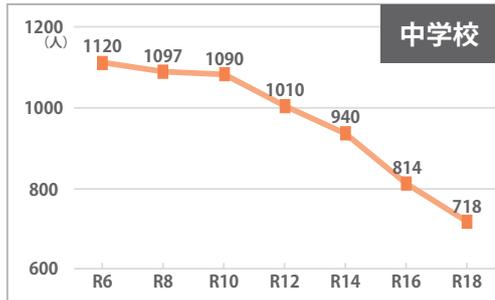
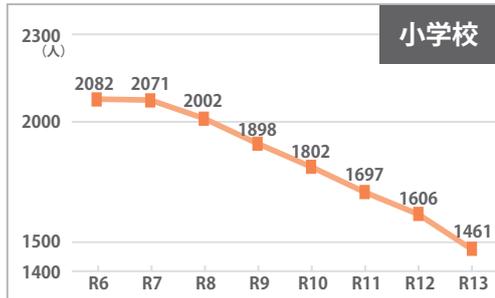
ら、令和6年度に「小林市教育みらい検討委員会」を設置し、市全体の学校の在り方についての検討を行いました。

令和7年2月には、同委員会から「小林市立学校の在り方に関する提言書」が市教育委員会へ提出されました。

この提言書を受け、保護者や地域住民などの意見に耳を傾け、小林市ならではの学校づくりを進めるため、各小学校区単位で意見交換会を開催します。子どもたちを育む大切な場、「学校」の未来をみんなで一緒に考えましょう。

市内小中学校児童生徒数の推移

※ R8以降の数値は、R7.4月現在の住民基本台帳による入学予定者数で算定



提出された提言書の概要

【小学校】

地域との結びつきが強く、地域コミュニティの核としての役割を担っていること、通学距離や時間が増えると子どもの心身の負担が増加することなどから、当面は、可能な限り現状を維持していくことが望ましい。

【中学校】

一定数の集団を必要とする学習活動を行う際の選択肢の確保が求められること、発達の段階に応じた人間関係の構築ができるような環境整備が必要であることなどから、地理的な条件や地域性を踏まえた再編を行い、適正規模を実現していくことが望ましい。

意見交換会の開催日程(前半)

校区名	開催日	場所	時間
須木小	7月9日(水曜)	須木総合ふるさとセンター	19時～
幸ヶ丘小	7月16日(水曜)	幸ヶ丘小体育館	
西小林小	7月23日(水曜)	西小林小体育館	
永久津小	7月30日(水曜)	永久津小体育館	
東方小	8月6日(水曜)	東方小体育館	
細野小	8月20日(水曜)	細野小体育館	

※後半(6校)は10～11月に開催予定